

1200万人が悩む **ハゲ** の大研究

「おひとりさま老人」孤立死リスク

サンデー毎日

「最後の独身大物」ついに陥落

福山雅治 「衝撃婚」

知られざる軌跡

新連載
松崎菊也「あつ! そりゃ俺だ」
一条真也「人生の四季」
「運動部虎の穴」

大正11年3月31日第三種郵便物認可
2015年10月18日発行 第94巻第43号 通巻5306号
毎週水曜日発行(10月6日発売)

10.18号

定価 380円

本誌が大胆提言「一律10%」は愚の骨頂

日本の消費税負担 世界最高レベル

巻頭グラビア
氷川きよし



阿木燿子の艶もたけなわ

第 075 回

今年8月、新潟県長岡市とハワイ・ホノルル市との共催で、真珠湾に花火を上げるセレモニーに映画作家の大林宣彦さんと阿木さんが出席。今回は、その花火の話を皮切りに、「平和」の意味を語り合っていたいただきました。加えて、若かりし頃の阿木さんの秘話、また山口百恵さんのエピソードなど盛りだくさん。

NOBUHIKO OBAYASHI

大林宣彦

映画作家

敗戦後70年目の夏、あの真珠湾で長岡の花火が観られるなんてね。

阿木 今年の夏、大林さんと一緒にさせていただいた真珠湾の花火、キレイでしたね。

大林 感慨に堪えぬ夜でした。

阿木 戦後70年の節目に、長岡市とホノルル市の共催で、真珠湾で花火を上げるというセレモニーに大林さんと共に参加させていたただいたんですが、私、見上げていたら、胸が熱くなってきて……

大林 敗戦後70年目の夏、あの真珠湾で長岡の花火が観られるなんてね。

てね。長岡は真珠湾奇襲攻撃の山本五十六の里ですから。

阿木 長岡とホノルルは姉妹都市ですよ。花火が平和と友好の懸け橋になった感じですね。大林さんは長岡とはどういうご縁で？

大林 僕は2009年、長岡でこの花火を観たのが最初ですね。実は僕はイベント花火って、大嫌いです。本来、お祭りというのは昔から日付が決まっているのに、観光客を集めるために次々と土日に変更して

いった。ところが、長岡市から呼ばれたのは8月3日で、月曜日。

阿木 長岡の花火は日にちが決まっていますよ。

大林 遥かに見渡す信濃川の黄昏の中、どんな派手な花火が上がるのかと思ったら、真っ白い花火が一発ポーンと咲いてふわーっと消える。しかもゆっくり。気づけば群青色の空になっている。しばらくたったらまた白い花火がポーンと咲いて消える。今度は漆黒の

空。すると、涙が出てきた。この花火には、心ががあるんだと思った。

阿木 白菊という花火ですね。真珠湾でも最初に上がり、とても印象的でした。そもそもこの白菊、慰霊のための花火なんです。

大林 そう、1945年8月1日夜10時30分、長岡は焼夷弾攻撃を受けて8割の市街が焼け、多くの人が亡くなった。その同じ時間に毎年3発上げると聞いて驚いた。戦争体験者は空襲を思い出し、い

まだに花火を観られない。花火が始まると、家に閉じこもる。「なぜそんな怖い花火を上げるの？」と聞くと、「私たちは忘れたけれど、戦争を知らない子どもたちのために、二度と戦争を起こさせないようにと、願っていますね」と。

阿木 忌まわしい記憶を乗り越えて、次世代に伝えようという気持ちで込められていますね。

大林 その言葉を聞いて思い出したのが、画家・山下清さんの代表

作「長岡の花火」です。山下清さんは「みんなが爆弾なんかつくだないできれいな花火ばかりをつくらなければなら、さつと戦争なんか起きなかつたんだ」と、言っていたんですよ。この言葉を映画にしてみました。森民夫・長岡市長が「いつか長岡の花火を日米合同の追悼と平和祈念の花火としてパールハーバーで打ち上げたい」とおっしゃった。「五十六がほんとうに願っていたのは日

米友好だったから」と。それで僕も映画を作ること約束した。

阿木 今回、大林さんと対談させていたただくにあたって、改めて映画「転校生」(2007年版)と「時をかける少女」を見ました。

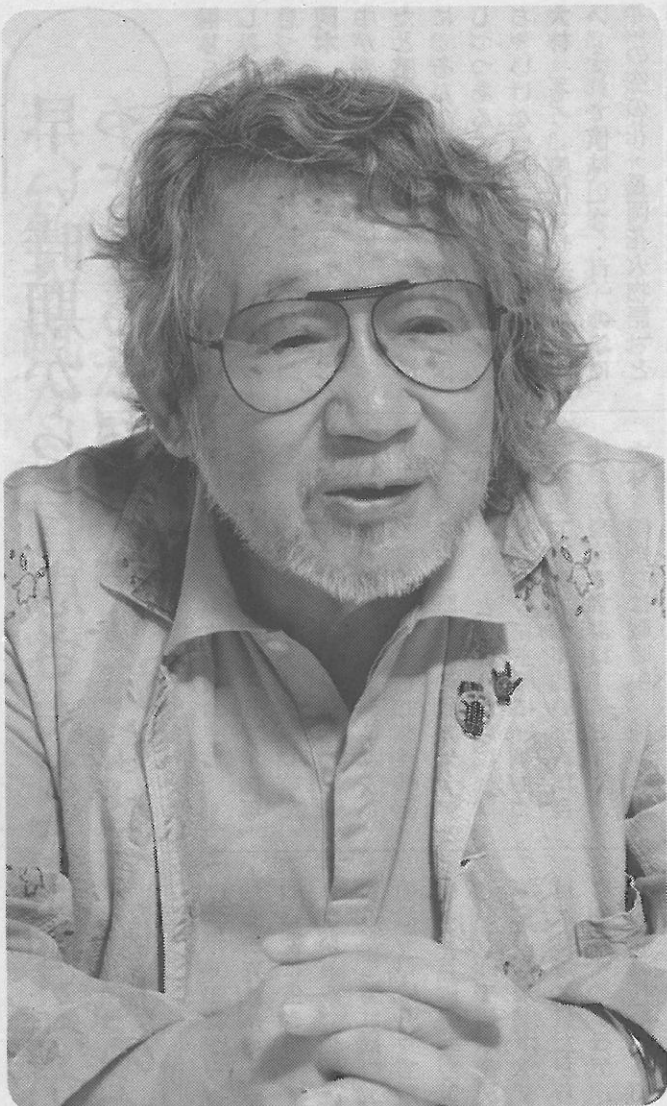
大林 このごろ、「大林さん、ようやく正体を現しましたね」と言われることが多いんです(苦笑)。

たとえば、1982年版の「転校生」や「時をかける少女」は僕の故郷、尾道を舞台にしたので「さびしんぼう」を含め、尾道3部作と呼ばれてるんですが、尾道にも戦争が終わった後もまだ緑は残っていた。ところが高度経済成長期、日本人が自らの手で日本を壊し始めた。僕も戦争中の子どもですから、お兄ちゃんたちが命懸けで守ってくれた日本を壊すことはできない。それで僕は町おこしじゃなく「町守り」の映画を作ったんです。

阿木 そんな大林さんの思いとは裏腹に、今はもうあの景色は……

大林 失われていきましたね、残念ながら。そんなことをやっている中で、長岡と出会った。長岡は雪国だけど、この地の人々は雪でケガ人が出ても雪に感謝してる。僕が「生憎の雪でしょう」と言っても、「いや、恵みの雪です」と。美味しい米を作り、旨い酒を造る恵みの雪だとい、生憎を、恵みに変える文化力を長岡の人々は持っている。同じように、「3・11」

の東日本大震災で、ボランティアがおばあちゃんにおむすびを手渡したら「お金を払う」と言葉が返ってくる。西日本育ちの僕には



おおばやしのぶひこ 1938年、広島県生まれ。テレビCM草創期にチャールズ・ブロンソンの「マンダム」をはじめ、2000本以上のCMを制作。77年「HOUSE ハウス」で劇場映画に進出。同年、「瞳の中の訪問者」と共にブルーリボン新人賞受賞。以降、「異人たちとの夏」(88年)で毎日映画コンクール監督賞など受賞。著書は「なぜ若者は老人に席を譲らなくなったのか」(幻冬舎新書)など多数。現在、倉敷芸術科学大学客員教授、長岡造形大学客員教授、尚美学園大学大学院教授。2004年春の紫綬褒章受章、09年秋の旭日小綬章受章。

早い時期から(百恵さんと友和さんが)愛し合 っているとおわかりになっ ていたのでは?

信じられない我慢強さと相手を慈

しみ合う文化が、長岡や東北には

息づいているんだって知った。

阿木 被災者の皆さんの姿に日本
中が感動して、逆に勇気をもらっ
たと感じた人も多かったはずなの
に、そんな思いも時とともに風化
しつつあるようで、私、絶対忘れ
ちゃいけないって思うんです。

大林 そう。風化させてはいけな

い。それで僕は、「3・11」の年に
「この空の花・長岡花火物語」と
いう映画を作った。実はあのと
き、長岡は花火を自粛しようとし
ていたのね。僕が、「あなたたち、
中越地震のときどうした?」と聞
いたら「花火はすすんで上げまし
た」と言う。じゃあ、今こそ上げ
るべきじゃないかと。でもさすが
に映画は無理だろうと思ってい
たら「映画も打ち上げましよう!」
ということで作ることになった。

阿木 今まで出版なされたエッセ
ー集の中で、大林さんはたびた
び、「ご自身を「敗戦少年」と呼ん

でいらっしやいますよね。

大林 昭和10(1935)〜15年

生まれを、僕はそう呼んでいま
す。戦争が始まったとき、僕は3、
4歳。もちろん、戦前派でなく、
戦中派でもない。ましてや、戦後
派でもない。戦後派の大人は「ア
プレゲール」と呼ばれ、急に軽薄
でノーマルな平和主義になった。

阿木 アプレゲールという言葉自
体、享乐的ですよ。

大林 僕たちは戦時中、純粋な軍

国少年でしたから、負けたら殺さ

れるか死ぬかの二者択一でした。

敗戦後に生きるってことが想像で
きなかった。言葉は乱暴だけど、
負けたら男は撲殺、女は強姦だと、
子ども心に思ってた。しかし、GH
Q(連合国軍総司令部)は「平和」
という形で日本を洗脳してきたん
です。本来、ポツダム宣言の調印
日は9月2日だから、敗戦日は9
月2日。ところが、僕たちは玉音
放送が流れた8月15日を敗戦では



なっているんですか。

大林 自身の戦争体験を恭子さん

は、僕にすらあまり語らない。だ
けど、東京大空襲の真ん真ん中に
いた人です。当時は大塚にいて、
焼け野原で上野まで全部見えな
かった。それも見えるのは死体ば
かり。だから、一度死んでいる。
二人が出会ったとき、僕はなぜか
今一番大事なことをこの人に言わ
なきゃいかんと思って、「結婚し
ない?」って言った。

阿木 すごいインスピレーション。
恭子さんの反応は?

大林 「ええ、結婚はこれまで18
年間しっかり考えてきたことだか
ら、返事は『はい』です」と。同志
なんだよね。恋愛とかというより、
あの戦争から生き残った者という
同志。聞くと彼女は、その後疎開を
して、お父さんから敗戦後すぐ「フ
ロンティアスピリット」とか「エ
ポックメーカーキング」、つまり昨日
までの敵性用語を聞かされて「お

なく、「終戦」と教えられた。つま

り、日本は、負けていない。日本
人が皆「平和難民」となっていく
中で、僕らは「平和孤児」だった。

阿木 そこから何かがおかしいで
すよね。私たち日本人は、真実を
見据えないまま幻想の中で戦後を
歩んできた感じですね。ところで
で、大林さんのお爺様の下駄の工
ピソード、私、すごく好きで……。

敗戦後のあるとき、お爺様が大林
さんに「下駄と靴とどっちがいい
履物か?」って聞きになったそ
うですね。大林さんが「そりゃあ、
靴だよ」と答えると、「お前が靴を
履いて駆け出せば、たくさんのお
を踏み潰すだろう。だが下駄なら
ば地面との接点が少ない分、蟻を
殺さずに済む。気をつけて歩くか
の時代というのは、敵国だけじゃ
ない、蟻とも仲良くすることだか
ら、下駄を履いてそれを誇りとし
て歩け」と、おっしゃられたとか。
すごくステキなお話だな。



キヤメラが回っていないとき、「風が友和さん ね、私が帆ならいいわ」なんて話していた。



前たちにこれからの時代を任せる
ぞ」と言われた。僕は、代々医者
の家系なのに医者にならなかった。
父親が「平和というの人間がや
りたいことをやれることだから、
息子のやりたいことをやらしてや
ろう」と。どちらも戦争で犠牲に
なった父親の世代のロマンスを引
き継いで、平和の時代を生きよう
ということをやや応なく決意をし
てしまった世代。そういう同志な
のね。だから今も、二度とこの日
本を戦争のできる国にしちゃあ
いかん、と映画を使って、これから
ホノルル、マニラ、諸島、ロサン
ゼルス、ニューヨークへと、上映と
ティーチインの旅に出るんです。

阿木 あのー、急に話は変わるん
ですけど、ハワイで恭子さんが、
「耀子ちゃんの写真、うちにまだ
あるわよ」っておっしゃっていま
したが、本当に?

大林 あるある。(編集者の方を
向き、片目を閉じて) 実はね、耀
子ちゃんとはお付き合いが古い

の。せっかくだからきょうは、そのときのエピソードをご紹介しますしょう(笑)。昔、僕はコマーシャルを撮っていました。燿子ちゃんはまだ若くて、コマーシャルのモデルをおやりになっていた。他にも2人、女の子がいたね。「ミニジャンプ」というネグリジェのCMだったよね。

阿木 そう、ナイトウエアみたいなものでした。

大林 そのコマーシャルで、3人の女の子が出ただけ、その一人が燿子ちゃんでした。僕は、コマーシャルも映画も絵コンテを描かないんです。画面はキヤメラマンに託す。その代わり、「字コンテ」を書く。

字コンテといっても、この企業はこういう理念でこんな商品を作ったから、こういうCMを撮らんだって。原稿用紙10枚ぐらい、演出のフィロソフィー

(哲学)をね。ミニジャンプの姿になった燿子ちゃんに、「これを撮影までに読んどのいてね」と言ったら、「はい」って。襖の向こうできちんと膝を正して座って、丁寧に2時間ぐらいかけて熱心に読んで

いました。それで「読みました?」と聞いたら、「はい」。「どう? わかった?」と言ったら、「はい。とってもお上手に書けてます」って(全員爆笑)。僕ね、演出ノートを褒められたの、この人が初めて(笑)。後に、山口百恵ちゃんも僕が最初にCMで撮って映画に出したりしたけど、百恵ちゃんのステ



キな歌を書いたのが、「阿木燿子」と知って、あの子の僕を褒めてくれた娘だっけ! (笑)

阿木 うわッ、失礼しました。何て偉そうな(笑)。穴があいたら入りたい心境です。

大林 いやいや、素直な発言でしたよ。ホントに感心して、「とってもお上手に書けてます」って。

阿木 当時の大林さんは、コマーシャル界の大御所。私はすごく緊張して。そんな巨匠に起用していただいて、緊張の極みだったんだと思います。それにしても何と大それたことを(笑)。でも振り返れば、大林さんは、百恵さんと三浦友和さんのコマーシャルをずっと撮っていた。結構、早い

時期から二人は愛し合っているとおわかりになっていたのでは?

大林 百恵ちゃんのコマーシャルの相手を探している、「昔の王子様みたいな子はいない?」と聞いたら、ホリプロの社長が「ちよっと人に預けた子がいるから会ってみる?」と言ったのが、友和君。とてもいい青年

で、百恵ちゃんとロケに行く、弁当運びから全部やってくれた。実は、彼は監督をやりたいくてシナリオも書いていたので、僕の場合——つまりキヤメラの横で見させてみた。僕の映画は、必ず俳優さんが僕の顔を見ながら芝居するということにしたから、百恵ちゃんも友和君の顔を見ながら芝居す

る。すると、僕がいたときは「カット」を出すと、「うまくいったかしら」とペロッと舌出してるのが映っている。それが友和君に代わってから、「カット」の後、目がスーッと名残惜しそうに離れていった。また、こんなこともあった。マイクを付けているから声が入っているでしょ。キヤメラが回っていないとき、海を見ながら「ああ、ヨットが走っている」「うん。後ろから風に吹かれてね」「風が友和さんね、私が帆ならいいわ」なんて話していた。

阿木 自分たちの会話が大林さんの耳に届いているとも知らずにね(笑)。何だか、微笑ましい!

大林 徐々に恋が芽生えてくるのを7年間ずっと見てきました。最後に、「ふりむけば愛」という映画を撮りました。振り向いたら、そこに愛があった!

阿木 二人の愛の軌跡をそのままタイトルにしたんですね。今では伝説のコンビですけど、お二人ともお幸せそうなので良かったなって。そう考えると大林さんは、結びの神様ですね。

大林 映画の神様のお陰です(笑)。構成・山田厚俊/撮影・根岸基弘